

## 対話法 私の体験談

町内の年配者とよい関係を作れました！

結婚してはや10年が過ぎましたが、近所の年配者の方々との会話が続き、一緒に町内会の用事に参加していても孤立感を募らせていた私。年代が違うので、何を話していいかわからず、積極的に交わることはとうてい出来ずにいました。しかし、対話法を学習してから、ちょっとした時候の挨拶時に「確認法」を実践し、年配者の方々から好感を持って接していただけるようになりました。こちらから話題を提供せずに、相手の言葉を確認するだけでこんなに効果があるなんて。それ以来、「話のわかる嫁さん」で通っています。

具体的には ●は〈対話法〉の確認行為です。

冬 家の前の雪を除雪機でとばしていたのを目撃されていて...

「まあ、あんた、女がてらに機械扱ってたいしたもんだねえ。私なんか、もう年だしそんな立派なことできないわ」

この言葉を聞いて、正直なところ、ムカッ。

(誰も好きこのんで除雪機使ってるわけじゃないわ。しかたないじゃない。ダンナは仕事でいないし、私は車出さなきゃ、買い物にもいけないし...)

● 若いときは一所懸命働きなすったんですね。

「そうだね、私の家は女の姉妹しかいなかったすけ、トラクターだってなんだって乗って米とってたわね。今なんか、足も痛くて、役立たずになっちゃたけどね」

● 男の仕事までして頑張っていて、足も痛くなってしまったんですね。

「そうだね、〇〇さん(私の名前)よく分かってくれるね。あんただけだわ。そう言ってくれるの。」

● ！

というような会話をした事がありました。